

岩木健診活用 免疫研究

弘前大学とキリンホールディングス(東京)は、共同研究講座「エイジング・システム医科学研究講座」を開設し27日、同大で開設式を開いた。弘大が20年以上にわたり蓄積してきた「岩木健康増進プロジェクト(岩木健診)」の健康ビッグデータと、キリンの免疫・ヘルスサイエンス分野の研究実績を生かし、日本人の免疫機能と健康との関係を科学的に解明。予防やセルフケアにつながる新たな成果を生み出し、健康寿命の延伸やウェルビーイング(心身ともに良好な状態)の実現を目指す。

(菊合賢)

弘大とキリン 共同講座の開設式



「新たな知見創出」

研究講座は4月1日付で開設。弘大健康未来イノベーションセンターを拠点に2030年3月までの4年間研究を進める。

弘大は05年から弘前市岩木地区で岩木健診を実施し、約3千項目に及ぶ世界でも例のない健康ビッグデータを蓄積。これを基に予防医学研究を進めてきた。一方、キリンは発酵・バイオ技術を生かし、免疫機能や健康維持に関する研究を積み重ねてきた。共同講座では双方の強みを生か

健康長寿社会の実現に向けた研究推進に意欲を示す福田学長(左から2人目)と赤塚・キリン中央研究所長(同3人目)ら27日、弘前大学医学部

し、加齢を単なる老化現象ではなく、多様な要因が関わる「システム」として捉えながら、免疫老化の仕組みや健康との関係を解明。

日常生活で実践できる予防法やセルフケアの開発につながる。将来的に健康食品や健康サービスの開発も視野に入れる。

開設式でキリンホールディングスの赤塚秀貴・キリン中央研究所長が「弘前大学とキリンが連携すること

で、一つの組織だけでは実現できない新たな価値を生み出し、健康長寿社会の実現に貢献したい」と意気込みを述べた。

福田眞作学長は「青森だけでなく、日本全体、さらには世界へ発信できる新たな知見の創出につながることを願っている」と語った。

弘大では27日現在、24の共同研究講座、一つの共創研究所が開設されている。